

## 国際関連情報 国際会議等

## フランスANC主催 会計リサーチ・シンポジウムの報告

かわにし やすのぶ  
ASBJ 副委員長 川西 安喜



## はじめに

2020年12月14日、フランスの会計基準設定主体である会計基準局（ANC）の主催で第10回会計リサーチ・シンポジウムが開催された。例年バリで開催される本シンポジウムであるが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響によりウェブ上で行われた。

今年のシンポジウムは「会計と危機」をテーマに議論が行われ、フランスの学者による論文の発表、論文のテーマについてのラウンドテーブル、及び論文のテーマに関するスピーチが行われた。ラウンドテーブルの参加者やスピーカーとして、日本を含む各国の会計基準設定主体の代表も招かれた。議論はフランス語又は英語で行われ、同時通訳が提供された。

## スケジュール

スケジュールは以下のとおりであった。

- 開会の辞
- 財務業績の課題：過去及び将来の影響をどのように測定するか
- ビジネス・モデルの課題：レジリエンス、変化、減価償却及び透明性
- 現金及び資金調達課題の課題：デットからエクイティまで
- 非財務情報の課題：危機時に長期的な視野を持つ？
- 最終ラウンドテーブル：パブリック・グッドと危機下の会計上の影響
- 閉会の辞

## 財務業績の課題：過去及び将来の影響をどのように測定するか

日本は「財務業績の課題：過去及び将来の影響をどのように測定するか」のセッションのスピーカーに招かれ、筆者が報告を行った。

ラウンドテーブルにおける主な論点は次のようなものであった。

- 新型コロナウイルス感染症の拡大のような危機に関する情報の透明性が求められることはいうまでもないが、不確実性が高い中では慎

重さも必要であると考えられる。現行制度のバランスは適切といえるか。

- 企業は、不確実性が高い中での将来キャッシュ・フローの予測をどのように行っているのか。また、監査人はそれをどのように監査しているのか。最も重要な要因は何か。
- 新型コロナウイルス感染症の影響に関する開示のばらつきは相当大きいことが観察されている。このことは財務情報の信頼性を損なうことにならないか。
- 金融危機の結果、会計基準の弱点が露呈し、IFRS 第9号の開発を加速させることになった。新型コロナウイルス感染症の拡大の結果、修正が必要な会計基準はあるか。
- 12月決算企業の半期決算が概ね終了したことを受け、大きな山は越えたといえるか。12月決算に向けて気になっていることはあるか。

日本からは、「ASBJによる COVID-19 のパンデミックへの対応」のタイトルでプレゼン

テーションを行った。日本企業の多くが3月決算であり、新型コロナウイルス感染症が拡大し始めてから世界に先駆けて年度決算を迎えたことや、ASBJが議事概要として公表した「会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症の影響の考え方」の内容等について説明を行った。

## おわりに

本シンポジウムに参加するのは今年で5年目となる。これまでも本シンポジウムの模様はウェブ配信されていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、今年は会場に観客を入れず、発表者の多くもウェブを通じて参加するか、事前に収録したビデオを流した。厳しい状況であったにもかかわらず、ラウンドテーブルでは活発な意見交換が行われていた。